

フィリピン・マニラ経済視察実施報告書

東京NBC 国際ビジネス委員会 海外視察 2014

主催 一般社団法人 東京ニュービジネス協議会 国際ビジネス委員会
公益社団法人 日本ニュービジネス協議会連合会
2014/10/10～10/14

目次

- I 参加者名簿
- II 期間
- III 渡航費用
- IV ミッションの目的
- V 視察内容
- VI 成果報告
 - 1、視察レポート
 - 2、フィリピン・マニラ概要

以下のとおり、フィリピン・マニラ経済視察を報告する。

I 参加者名簿 12名+事務局1名 計13名 (以下、敬称略)

	所属NBC	NBC役職	法人名	役職	会員名
1	JNB 東京NBC	会長 顧問	学校法人新潟総合学園	総長	池田 弘
2	JNB 東京NBC	副会長 会長	株式会社ミスパリ	代表取締役	下村 朱美
3	神奈川	会長	株式会社マクニカ	取締役会長	神山 治貴
4	東京NBC	副会長 国際部門部門長	株式会社光彩工芸	代表取締役社長	深沢 栄治
5	東京NBC	国際ビジネス委員会 副委員長	株式会社M's club	代表取締役	山本 修義
6	東京NBC		クラブ・コンシェルジュ株式会社	代表取締役社長	宮山 直之
7	東京NBC		みなとアドバイザーズ株式会社	代表取締役社長	若林 和子
8	東京NBC		株式会社スプラート	代表取締役	めでじま えいじ
9	東京NBC		株式会社JACK	代表取締役社長	矢野 恭介
10			株式会社CGSコンサルティング	代表取締役	末永 貴志
11			株式会社アムスク	代表取締役社長	栗原 新太郎
12			株式会社トリート	マネージャー	平山 進也
13			一般社団法人 東京ニュービジネス協議会	事務局	中澤 健太郎

II 期間 2014年10月10日(金) ~ 10月15日(火)

III 渡航費 ひとり 180,900円

(※2名一室利用の基本料金。シングル利用やグレードアップは別途料金)

◎日程 2015年10月10日(金)~10月14日(火)【5日間】

◎参加費用:180,900円※1(最少催行人員15名様)

※NBC会員でない方がご参加頂く場合、別途事務局までお問い合わせください

【※1】ホテル4泊分、食事代(行程表記載)、飛行機代(成田空港~マニラ空港間のエコノミークラス利用航空運賃、空港~ホテル間往復専用車及び送迎費用、現地日本語ガイド費用が含まれております。

【※2】燃油サーチャージ及び空港税が約19,210円(8月31日現在)が別途かかります。

【※3】マニラ空港税550ペソは直接空港でお支払下さい。

【オプション】お一人でお部屋を利用される場合は、別途追加料金が発生いたします。(お一人様部屋利用50,000円)

◎ご旅行条件

ご利用予定航空会社:JL(日本航空)

※ビジネスクラス希望の方は別途お問い合わせください。

ご利用予定ホテル:4泊(フェアモントホテル)

添乗員:同行いたします。

食事:朝3回 昼3回 夕3回

★ご注意点

・キャンセルの場合、30日前から20%のキャンセルチャージが発生します。

・フィリピン入国時6ヶ月以上及び滞在日数以上のパスポートの残存期間と未使用査証欄見開き2ページ以上が必要です。

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	行程	食事
1	10月10日 (金)	東京(成田)集合 東京(成田)発 マニラ(ニイノアキノ空港)着	16:10 18:10 21:50	JL745	成田空港にご集合いただいた後にVIPルームにて結団式 マニラへ 到着後、ホテルへ (マニラ泊)	夕:機内
2	10月11日 (日)	マニラ	9:00		フィリピン物件視察 アヤラ財閥視察 フィリピン懇親会 (マニラ泊)	朝:○ 昼:○ 夕:○
3	10月12日 (月)	マニラ	9:00		KLAB現地視察 シューマート視察 フィリピン懇親会 (マニラ泊)	朝:○ 昼:○ 夕:○
4	10月13日 (火)	マニラ	9:00		終日視察 懇親会予定 (マニラ泊)	朝:○ 昼:○ 夕:○
5	10月14日 (水)	マニラ マニラ(ニイノアキノ空港)集合 マニラ(ニイノアキノ空港)発 東京(成田)着	12:25 14:25 19:55	JL742	自由時間 成田空港へ	朝:○ 昼:× 夕:×

IV ミッションの目的

成長率7%を超えるフィリピンにおいて、海外進出拠点としてのフィリピンの優位性を学ぶ。

- ①今後も堅調な伸張が期待できること
- ②その原動力が欧米企業を中心とした業務委託であること
- ③その理由は英語力の高さと安価な人件費であること
- ④今後の課題が人口増加に見合う雇用創出問題であること

を確認する。

<補足>

- ①フィリピン政府は、2014年度の成長率目標「6.5%~7.5%」の達成は可能と発表。
- ②進出数世界一のコールセンターや、ウェブデザインや法律文書作成などの高付加価値化が進行。
- ③日本企業では、IT分野のKLab現地法人も英語力を生かして携帯ゲームソフトを作成、米国など世界中に配信。

V 視察内容

- 1日目 フィリピン・マニラへ出発
- 2日目 アヤラ財閥視察・プレゼンテーション
フィリピン・マニラ不動産視察
懇親会
- 3日目 KLab Cyscorpions Inc.視察・株式会社レアジョブ視察
懇親会
- 4日目 GMOクラウド株式会社 / ハロハロモール・シューマート視察
懇親会
- 5日目 日本・成田へ帰国

VI 成果報告

本視察会を通じて、下記を確認できた。尚、その詳細内容は以下に記す。

- ①海外進出国としての大変期待のもてる国であること
- ②進出の足掛かりにもなる多くの人脈作りに成功したこと

1、視察レポート

10月11日（土）

《視察》アヤラ財閥担当者によるアヤラの歴史とマカティを中心としたフィリピンの街づくりについてのプレゼンテーション

フィリピン・マニラ視察ツアー、1社目の訪問はフィリピンの大財閥アヤラ。下村会長より「フィリピンで新しい友人とビジネスチャンスができるツアーにしよう」とご挨拶を頂きスタートした。アヤラ財閥はマカティ市を中心にフィリピン全域の開発を手掛けており、今回私たちが滞在したホテル「フェアモントマカティ」はアヤラグループが運営するホテルだったである。今回のプレゼンテーションでは、フィリピンの不動産事情についての説明が主となった。



(ポイント)

- ① 1960年代、何もなかった頃からマニラ市を開発。アヤラはビルや建物ではなく「街の開発」を行っており、ワールドクラスの街を作ってきた。最近では外資系企業の進出が著しい。
- ② フィリピンが発表しているトップ企業ランキングで上位10社中4社（※）アヤラグループが入っている。
- ③ マカティ市内にある企業収入ランキングで、アヤラグループはNo.1である。



※4社 第1位：アヤラランド 第3位：アヤラコーポレーション 第4位：Global telecom
第6位：Bank of Phillipin



現在のマカティは完成しているわけではなく、今後 60 億ペソ（日本円で約 160 億円）かけて更に開発していく予定とのこと。まだまだ「街」が成長過程であることから、今後も堅調な伸張が期待できると思われる。

昼食はマカティ市最大のショッピングモール GreenBelt の「5」にあるフィリピンレストラン「Felix」でランチ



午後からは「Ayala Land Premier BGC Showroom」にて今後建設を予定している高層ビルの showroom 見学を行った。



夜の懇親会から、池田会長、深沢副会長が合流し、ツアーメンバーに加え、翌日訪問予定の株式会社レアジョブの中村様、ミスインターナショナル 2013 優勝者ベア・ローズ・サンチャゴさんとの懇親会を行った。会場は Green Belt3 のフィリピンレストラン「Sentro 1771」。



10月12日（日）

《視察》KLab Cyscorpions Inc. 視察

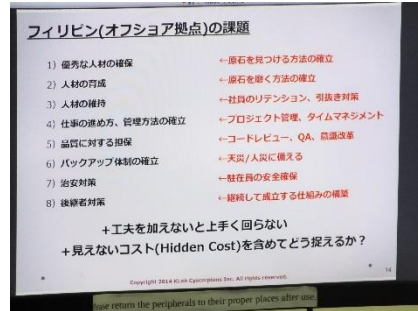
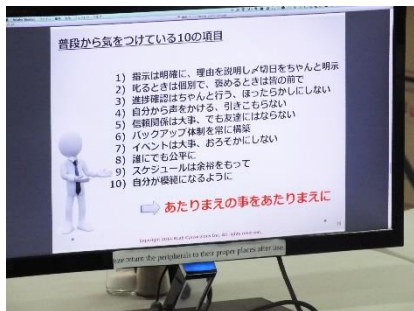
東京ニュービジネス協議会会員でもある株式会社 KLab の現地法人 KLab Cyscorpions Inc.を視察。訪問前に外国人墓地を見学し、フィリピンの歴史を学んだ。立ち並ぶ近代的なビルを背景に十字架が並んでいる風景が不思議な印象を受けた。





当日は代表の野口氏が不在のため HR Director 高橋氏と Director 鈴置氏にご対応頂いた。KLab Cyscorpions Inc のある、BGC エリアはマニラの中でも一番開発されているホットなエリアで、交通の便もよい。当初、Cyscorpions Inc は、オーストラリアでシステムの受託会社として 2007 年に立ち上げた。その後オーストラリアでの人件費高騰もありフィリピンに移転。1 年間役員は給与なしで働き、代表の野口氏は日本に仕事を取りにいらしていたとのこと。徐々に収益が上がるようになり次のステップに進むべく、真田氏に声を掛けられ 2012 年に今の形態になった。KLab の中でも国によって役割があり、フィリピンでは主に製作と開発を行っている。フィリピンでのメリットは、労働力の安さ、親日国、将来性のある人材マーケット、英語力とのこと。特に人材に関しては、労働者の平均年齢が 23~24 歳と若く、その労働力は 2023 年には日本を超えると言われている。課題はまだまだ多く、少しずつ改善はされてきたが、遅刻に対する概念、人材の維持（辞めさせない環境作り（※））などベンチャーならではの「社員への心配り」が見受けられた。

※食事やスマホの提供、クリスマスパーティーや文化祭、年 1 回の社員旅行など行っているとのこと



BGC エリアには、欧米企業が多く進出しているとのこと。労働力の安さや、英語力の高さが評価され、コールセンター業務は 2011 年にインドを抜いて世界一の規模となり、今は憧れの職業として定着しつつある。企業競争が激化する欧米企業にとって、安価な人件費、優れた英語力は、魅力的な条件であり、今後も外資系企業の進出は続くと思われる。

但し、人口増に伴う雇用問題は、外資系企業の進出により雇用増が見込まれるが、人口増と雇用増のペースがほぼ同じであることから、現状は改善されているとは言い難い。高校、大学を卒業してもすぐに就業できない状況が今でも続いている様子であり、改善が急がれる。

BGC にある韓国料理「Sariwon」にてランチ。ビビンバを食した。



《視察》株式会社レアジョブ

ニッポン新事業創出大賞グローバル部門の受賞企業である「株式会社レアジョブ」を視察。日本とフィリピンをskypeで繋ぎ、英会話レッスンをを行う。2020年東京オリンピック開催までに日本人1000万人が英語を話せるように、を目標に年々規模を拡大し、今年6月にマザーズ上場を果たした。従来の通学型からネットサービスという新しいモデルを構築したことで、店舗展開が不必要、人件費はフィリピン人の雇用と歩合制ということでコスト削減できることから、25分129円～という格安な値段でサービスを提供することができるとのこと。現在、3,800名の講師がおり、フィリピン大学卒の高学歴の新卒者が多く、講師の質は高い。累計利用者数は25万人、現在のアクティブ会員は3万人とニーズが高い。当日は、実際の授業の様子をデモで行い、リアルなサービス内容を体験することができた。現在、個人会員が圧倒的に多いが、法人利用も徐々に増えてきている。また、日本にとどまらず、アジアへの進出を検討しているとのこと。今後、更なる拡大が予想される。



10月13日(月)

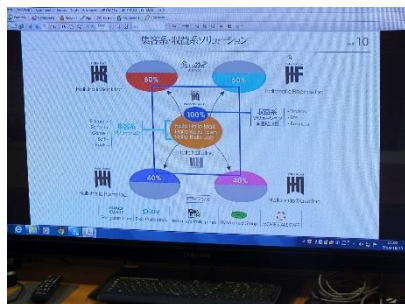
《視察》GMO Global Sign 視察

セキュリティ会社であることから、写真撮影不可。ビルに入る際の荷物チェック、事前のIDチェック等かなり厳しく、同社がこのビルを選んだ理由もうなずける。ネットに関するセキュリティを請け負っており、SSL証明書や認証デジタルIDの発行等行っている。印象的だったのは今回ご担当頂いた松田氏の苦労話。英語があまり話せない中フィリピンへ転勤になり、上司の突然の退職。責任者としてのプレッシャー、フィリピンスタッフとのコミュニケーションの難しさ、人材確保の難しさなど様々な問題を抱えながらも必死に努力されている姿を拝見し、参加メンバー一同、同社及び松田氏を応援する気持ちになった。



《視察》Hallohallo Inc.視察

フィリピンの楽天と言われる「ハロハロモール」を運営している「Hallohallo Inc」を視察。フィリピン最大のオンラインショッピングモールで品揃え、使いやすさはフィリピンでは随一。メインコンテンツはカウントダウンディスカウントセールで、残り1個の商品を1時間経過するごとに1%値下げする企画で大変人気がある。全体では30万社の情報がアップしており、車の販売も手がけている。（車は月間約30台販売している）月のユニークユーザー約80万人で、今は会員数（ハロハロ会員）を集めることに集中している。（無料）収益は商品が売れた時にバックをもらう。Hallohallo job、Hallohallo Bank、Hallohallo Finance、Hallohallo Home、Hallohallo Travel 等幅広い分野で活動している。Hallohallo Inc はマザーズ上場を目指す。フィリピンのためになにかをしたいと岡田社長の熱い想いを感じることができた。



《視察》シューマート視察

フィリピン最大級のショッピングモール「SM シューマート」を訪問。シューマート Investor Relations Tim Dniels 氏、NBC 下村会長の挨拶からミーティングがスタート。企業紹介のDVD 放映後、Tim 氏より概要説明。シューマートの事業は小売（49 店舗あるショッピングモールうち3 店舗はフィリピン・トップ10 に入っている）、金融、不動産の3 本柱で行っている。創業者は HARLEY T.SY 氏で6 名の子供達が役員をしている所謂ファミリービジネスである。毎週火曜日に6 名の役員と顧問が集まりミーティングを行っているため、決断が早く、スピーディーな企業体質。シューマートは、繁栄のためでなく、街の中心の役割として、コミュニティ、エンターテイメントなどひとつの場所で全てを賄える街造りを行っている。今後も幅広い消費者に手の届く範囲で出店を行うとのこと。現在、どの店舗も1 階はすべてローカル店舗で占めている。占有率は97%と地元からのニーズは高いことが伺える。店舗数はフィリピン49 店舗で中国9 店舗、中国の売上の方が多い。今後もフィリピンに限らず、グローバルな展開が注目される。



2,フィリピン・マニラ概要

国土 日本の約 8 割 7,109 の島からなる島国

人口 約 1 億人 (2012 年推定) 人口増加率約 2% 首都圏の人口=1200 万人

民族 マレー系主体 多種多民族国家

言語 フィリピン語、英語。80 前後に言語がある。

宗教 ASEAN 唯一のローマカトリック 83%、キリスト教 10%、イスラム教 5%

平均寿命 男性=69.5 歳 女性=73.9 歳

教育 初等教育進学率 97.6% 大学進学率約 30% (専門学校等含む) 識字率 95.6%

政治 立憲共和制、大統領制 (国民の直接選挙)

軍事力 正規軍 12.5 万人 予算 1500 億ペソ

主要産業 コールセンター業 (全就業人口の 50%) 農林水産業 (全就業人口の 10%)

製造業 (全就業人口の 30%) ※海外就労者=人口の 10% (外貨獲得の重要産業)

経済 成長率=7.2% (2013) インフレ率=3% 失業率=7.3% 一人あたりの GDP=2790 ドル

貿易関係 日本への輸出 (電気、電気機器、輸送用機器)

日本からの輸入 (中間財、資本財、燃料、消費財)

日比関係 在留邦人 (17,702 人 (2013)) 在日フィリピン人 209,137 人 (2013) 全体の 10%)

以上



一般社団法人東京ニュービジネス協議会

<http://www.nbc-world.net/>

107-0052 東京都港区赤坂 1-11-28 常和赤坂一丁目ビル 7F

T E L : 03-3584-6080 F A X : 03-3584-6081

公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会

<http://www.nbc-japan.net/>

107-0052 東京都港区赤坂 1-11-28 常和赤坂一丁目ビル 7F

T E L : 03-3584-6077 F A X : 03-3584-6081